

2025年1月12日（日）主日朝礼拝説教

『あなたが私のところへ』 井上隆晶牧師
ローマ書6章1～5節、マタイによる福音書3章10～17節

①【私たちの中に住む罪の問題】

今日はイエス様の洗礼祭であり、ルーシーちゃんの洗礼式を行います。洗礼という人が「もう悪い事は辞めよう」と決断して、心を入れ替えて善人になる式だと思っている人が多いと思います。戦後はそのように思って洗礼を受けた人が多くいたのですが、それは人間の業であってむしろ「更生」に近いものです。洗礼は「更生」ではなく「新生」です。更生はこの世の中で生まれ変わることで、新生はこの世に死んで、古い自分の中に、新しい自分が生まれる事なのです。更生は人間の業ですが、新生は神の創造の業です。神の業なので sacrament（聖礼典）と言われます。

キリスト教は罪ということ深く考えます。世の多く人は「私は犯罪を犯したことはない」と言います。しかし公の犯罪にならなくても、誰かの悪口を言ったり、部下をひどく叱ったり、子供を叱りすぎたり、ネットで誹謗中傷をして、誰かの心を傷つけることはあるでしょう。たまたま私たちの周りの人が死ななかっただけであり、もし自殺でもしたらあなたは犯罪者になるのです。

●私は子どもがまだ小さい時、箸をもって泣きじゃくる娘のお尻を叩き、叱りつけたことがあります。何で叩いたかも覚えていません。私も虫の居どころが悪かっただけでしょ。くだらんことで怒ったものです。自分に忍耐力がなかったのです。もしあの時、あの子が倒れ、箸が喉に刺さっていたら私は自分の子を殺したことになるのです。何度謝っても元に戻るものではありません。子どもは親を赦してくれますが、他人を傷つけたら、一生償いをしなければならないのです。怒りを抑えられないこと、人を傷つけることは罪です。

●私は大学の時、統一協会というカルト宗教に行きました。なぜ行ったのかというと、子どもの時は明日のことを心配せずに野原を遊び回り、親の元で、親が着せてくれる服や食べ物を何でも喜んで受け入れ、満足していたのに、大人になるに従って、何を持ってても心が満足することができなくなり、いろいろな不満で心がいっぱいになったからです。私は子どもの時の自分に帰りたかったのです。そこで何も知らないでカルトに行きました。自分が変われると思ったからです。もし人が与えられた物で満足し、常に感謝するなら、離婚も戦争も起きないでしょう。だから満足できない心も罪なのです。

私の中には隠れているだけで、さまざまな罪の根が潜んでいるのです。人間とはそういうもんだと開き直る人もいるでしょう。でも私はそうは思いません。神が創った人間はもっと美しいものだと思っています。この悪が、いつ私の中に生まれたのか分かりません。ただ生まれた時には無くても、成長するに従って必ず誰

の心にも生まれて来るものなのです。それを「罪」といいます。2世紀のオリゲネスは、「子どもは生まれてきた時は罪がないが、親と社会によって必ず罪を教えられる。そこから逃れられる者は誰もいない。」と言いました。すべての人が必ず罪を犯すと言うのをキリスト教では「原罪」といいます。私はこの罪の根を何度も抜こうと努力しましたが、自分の力ではどうにもなりません。イエス様はニコデモというユダヤ教の先生に「誰でも水と霊によって生まれなければ神の国に入ることはできない。」(ヨハネ3:5)と言われました。水と霊(聖霊)によって生まれるとは、洗礼のことです。どんなに修業した人も、立派な宗教学者も、偉人も人間の力や立派さや清さでは天国に入れないのです。それは赤ん坊も同じです。だから私たちは洗礼を受けるのです。

②【神が用意された洗礼によって新しい人が生まれる】

さてヨハネは自分の前に現れたイエス様を見て驚き、洗礼を受けるのを辞退しようとして言います。「私こそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、私のところへ来られたのですか」(マタイ3:14)。そんなヨハネにイエス様はこう答えられました。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、われわれにふさわしいことです。」(マタイ3:15)主が「われわれにふさわしい」と言われた言葉に注目して下さい。イエス様は罪がないのに、罪人の仲間になって下さったということです。イエス様は洗礼を受ける必要がないのに、あえて洗礼を受けたのは、ご自分の為ではなく私たちの為でした。衣服の汚れは水と触れ合うことによって、水の中に転嫁します。同じように、罪なき神の子キリストと私たちが一体になることによって、私の罪は彼に転嫁されるのです。だから彼は私たち人間と共に洗礼を受ける必要があったのです。だから洗礼式と言うのはキリストと一体となる式であり結婚式といってもいいでしょう。ヨハネは自分がしている「水による悔い改めの洗礼」(3:11)とは違う、新しい「聖霊と火の洗礼」(3:11)が始まると言いました。洗礼はもともとユダヤ教の入信の儀式でしたが、イエス様はそれをご自分が体験されることにより新しいものに変えられたのです。すなわち、水によって古い人を葬り去り、同時に聖霊と火(言葉)によって新しい人を創造する儀式へと変えられたのです。

●エルサレムのキュリロスは348年に聖墳墓教会で、洗礼志願者にこう説教しました。「三回水に浸かり、また水から上がりましたが、それでキリストの三日間の埋葬を暗に象徴していたのです。…あの救いの水はあなたがたにとって墓であり母の胎でもあったのです。」

三度水を頭にかけることはキリストの三日間の葬りを象り、水から上がることは復活を象っています。洗礼により、古い自分が水の中に葬られ、同時にキリストに結ばれた新しい人が、古い人の中に産まれるのです。パウロも「大切なのは新しく創造されることです。」(ガラテヤ6:15)と言いました。

ルーシーちゃんの洗礼を見て、皆さんも自分の中にキリストに結ばれた新しい神祕体がいるところを思い出して下さい。子どもの洗礼は何と謙虚でしょう。子ど

もはされるままです。受け身です。これこそ人の本来の姿です。今、ルーシーはキリストと一体になり、水の中に葬られ、キリストと一体の新しい命が彼女の中に産まれるのです。水と聖霊による死と再生の神秘に感謝しましょう。